

**令和3年度
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果**



**令和3年12月
海老名市立大谷中学校**

令和3年度

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

(1)教科に関する調査(国語, 算数・数学)

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

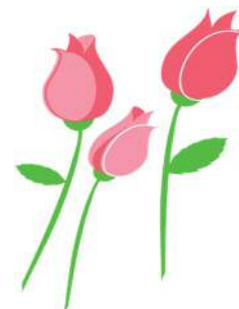
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査 (例)調査教科への興味・関心、読書時間、勉強時間の状況、ICT機器の使用状況、生活習慣 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

調査実施日

令和3年5月27日(木)



中学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・話し合いの話題や方向を捉えることができるかどうかをみる。
- ・質問の意図を捉えることができるかどうかをみる。
- ・話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考えることができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。
- ・書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫をすることができるかどうかをみる。
- ・文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・登場人物の言動の意味を考え、内容を理解しているかどうかをみる。
- ・文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうかをみる。
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかどうかをみる。
- ・相手や場に応じて敬語を適切に使うことができるかどうかをみる。
- ・伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的できている点

- 書くことの領域に優れています。特に問題2の設問二で問われた、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える力に高い成果が見られました。
- 相手や場に応じて敬語を適切に使う力を問う、問題4の設問三では、正答率で全国数値を7.4ポイント上回り、敬語の働きについての理解が相対的に高い様子が窺えます。ただし、正答率そのものは47.7%であり、今後も社会生活に必要とされる適切な言葉遣いについての学びが大切であると考えられます。

◆課題のある点

- 話すこと・聞くことに関する力に課題が見られます。特に問題1の設問三で問われた、話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える力に課題が見られました。
- 読むことの領域に関して、問題3の設問三で問われた登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する力に課題が見られました。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 紹介や報告など、伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見を述べたりする、話し合いを中心とした学習活動を取り入れ、話題や展開を捉えながら、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目標とする到達点を常に意識する姿勢を高めていきます。
- 文学的な文章を読む際に必要な、登場人物の言葉や行動が話の展開などにどのように関わっているかを考えながら読む力を伸ばしていきます。その際、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に関連付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うようにする指導にも力を入れていきます。

中学校 数学

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

- ・整式の加法と減法の計算ができるかどうかをみる。
- ・具体的な場面で、一元一次方程式をつくることができるかどうかをみる。
- ・扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解しているかどうかをみる。
- ・関数の意味を理解しているかどうかをみる。
- ・与えられたデータから中央値を求めることができるかどうかをみる。
- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。
- ・数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
- ・ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができるかどうかをみる。
- ・相対度数の必要性和意味を理解しているかどうかをみる。
- ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。
- ・平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができるかどうかをみる。
- ・錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解しているかどうかをみる。
- ・ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することができるかどうかをみる。

本校の調査結果

◆比較的にできている点

- すべての領域において概ね良好な成果があげられています。特にこの3年間、本学年が重点を置いて取り組んできた基礎・基本の計算能力が全国の正答率と比べても顕著に優位な成果を上げており、強みとなっています。

◆課題のある点

- 関数領域における数学的な見方・考え方については課題が見られます。特に問題4で問われた、反比例の表から、 x と y の関係を読み取るものに対して、誤った解釈をしている生徒が少なからず見受けられました。

今後の具体的な指導改善のポイント

- 日常生活にいかに関わりがあるかを常に指導のポイントとして押さえ、課題解決に数学を活用できるよう指導を工夫します。
- 「なぜ？」という疑問を持つことを大切に、何事においても「どうしてこれが成り立つか」「なぜ、このような結論が導けるのか」という視点から、物事を考える習慣をつけさせていく指導を心がけていきます。
- 数量の関係性について扱う問題では、数式やグラフ、表の持つ意味について、それぞれの特徴に目を向けながら考えさせ、事象を深く理解できるような問いかけや投げかけ方を工夫します。

生徒質問紙

※「肯定的な回答」とは、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」との合計
※()内は、該当する質問の全国の数値

学習について

◆本校のよかったところ

○ICT 機器を利用した学習が有効であることを生徒自身が強く意識して積極的に取り組んでいます。「学校で、コンピュータなどの ICT 機器を、他の生徒と意見交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」では、「ほぼ毎日」「週 1 回以上」を合わせて 69.6%(34.8)という結果で、「学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いには、肯定的な回答が 98.0%(93.2)ありました。

◆本校の課題と思われるところ

○学習活動の振り返りや学んだ内容を次の活動や普段の生活に生かすことに課題が見られます。「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」の問いへの肯定的な回答が 55.0%(59.5)となっています。

生活について

◆本校のよかったところ

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問いに 89.4%(88.5)、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の問いに 76.2%(74.7)と肯定的な回答がありました。他者の考えを柔軟に受け入れ尊重する姿勢をもち、周囲を大切にしながら能動的に考え行動する力の高まりと評価できます。

◆本校の課題と思われるところ

○感染症対策の影響も考えられますが、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに肯定的な回答は 30.5%(43.7)、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」では 41.0%(43.8)でした。よりよい社会の創り手となる資質・能力の育成が求められる中、地域や社会の一員としての関心や課題意識の向上が望まれます。

今後の具体的な取組について

○単元や題材を通して付けたい力をわかりやすく提示し、見通しを持って主体的に学ぼうとする意欲の向上を目指した指導に努めます。振り返り際には、自分自身の学びを客観的に捉え、学習のつながりを常に意識させることを大切にしていきます。

○「学びが世の中とつながっているか」という視点から、学習内容が普段の生活にどう生かせるかを考えるなど、日常生活や社会とのつながりを意識した活動を進めていきます。総合的な学習の時間における探究活動においても、地域や社会との関わりを踏まえた活動を計画していきます。

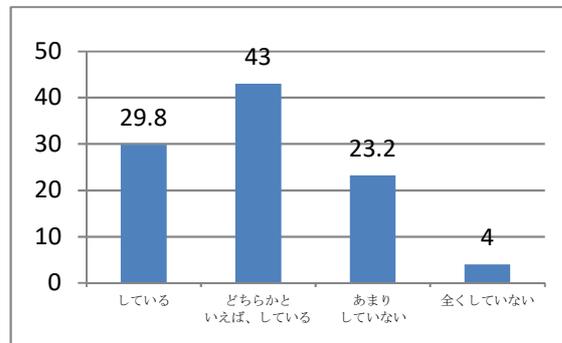
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の生徒質問紙の結果です。

1

生活習慣を整えましょう。

十分な睡眠が翌日の活力となり、充実した活動を支えます。寝る時間の目安を決め、それが習慣として定着するよう心がけましょう。

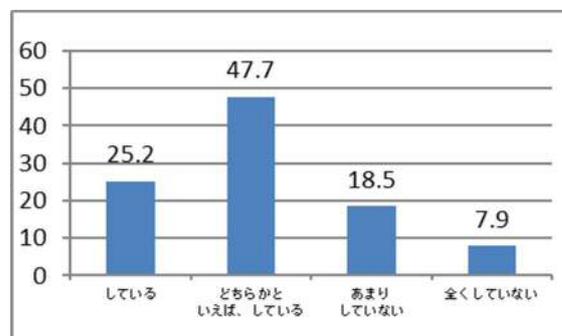


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

2

主体的に学習する姿勢を高めましょう。

与えられた課題や決められた事柄に取り組む受け身の姿勢から、自分で見通しを立て、粘り強く学ぶ姿勢をさらに高めましょう。

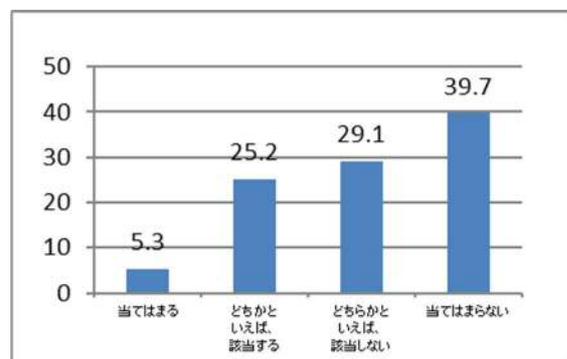


家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

3

地域の行事に参加しましょう。

地域の一員という自覚は社会生活を営む基盤となります。また、災害等、非常時の助け合いにも、日頃の人間関係が生きるはずです。

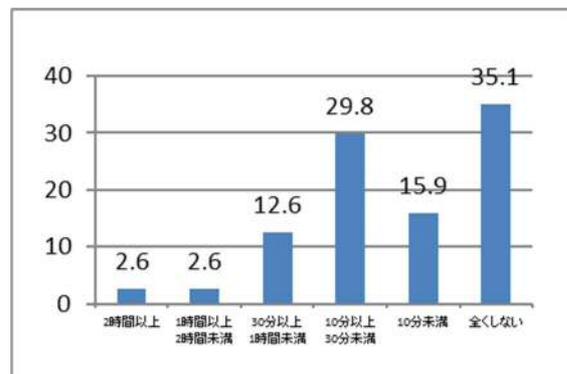


今住んでいる地域の行事に参加していますか

4

読書をする習慣をつけましょう。

読書を通して多様な表現に触れることが、語彙の質や量の充実につながり、対話的な学びによる思考力や表現力の向上を支えます。



学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらい読書を読みますか

資料 学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日摂る
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る
- ・コンピュータやスマートフォン等でゲームをする時間が短い

【主体的・対話的で深い学び】

- ・学習した内容を見直し、次の学習につなげている
- ・自分の考えが伝わるように工夫して発表している
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で学習計画を立てて学習をする
- ・家に本が多くある

【学級活動、道徳】

- ・学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、話し合ったりしている

【自尊感情・規範意識】

- ・自分には、よいところがあると思う
- ・自分でやると決めたことはやり遂げる

結果の公表にあたって

- 公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。
- 公表することによって、保護者や市民の皆様に市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。
- 「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。



海老名市 全国学力

検索



【市の結果についての問い合わせ先】

電話 046-235-4919

海老名市教育委員会教育支援課 指導係

